

Photo俳句



(2012-10 No.02)

陽香庵 百合樹



葛の花

ぼってりとして

道塞ぐ

- ・根からは葛粉を採り、薬用や食用にする葛。昔は、行李を編んだり、繊維は織物にもしたという有益な植物だが、現在では、ほとんど用いる人もない害植物扱いだ。
- ・定期的に行う町内会の草刈でも、駅へと降りる畑中の小道（近道）を塞ぐように、覆いかぶさっていて、取り除くのに苦労している。
- ・花は唇の厚い超熟女に似て、せっかく紫の色を有しているのに、なぜか暑苦しい。葛に覆われて下敷きになった木や笹が、悪女の深情けに溺れて、才能を伸ばせない若い男のようで、哀れ。



挫折超え

不器用医師が

ノーベル賞

- ・京大山中教授ノーベル賞のニュースが日本中をわかせた。
- ・新聞各紙も大々的に載せている。同教授の受賞はここ毎年予想されていたので、新聞には、やっと出せるとの意気込みがにじみ出ている。
- ・最近、テレビやネットで陰が薄い新聞ではあるが、詳しい分析記事は新聞の独壇場だ。
- ・また、新聞はコラムや囲み記事に時々光るものがある。小さい記事だが、記者の長年の情報の蓄積と分析力と教養が反映されているからだ。
- ・9日の新聞の中で、読売新聞の「編集手帳」が秀逸だ。
- ・山中教授が過去に、ジャマナカと蔑称されて、整形外科の臨床医師として、挫折していることにかからめて、仕事に、恋につまずいても、捨てたもんじゃない。「あすを信じて、きょうの悔し涙に乾杯！」と結んでいる。

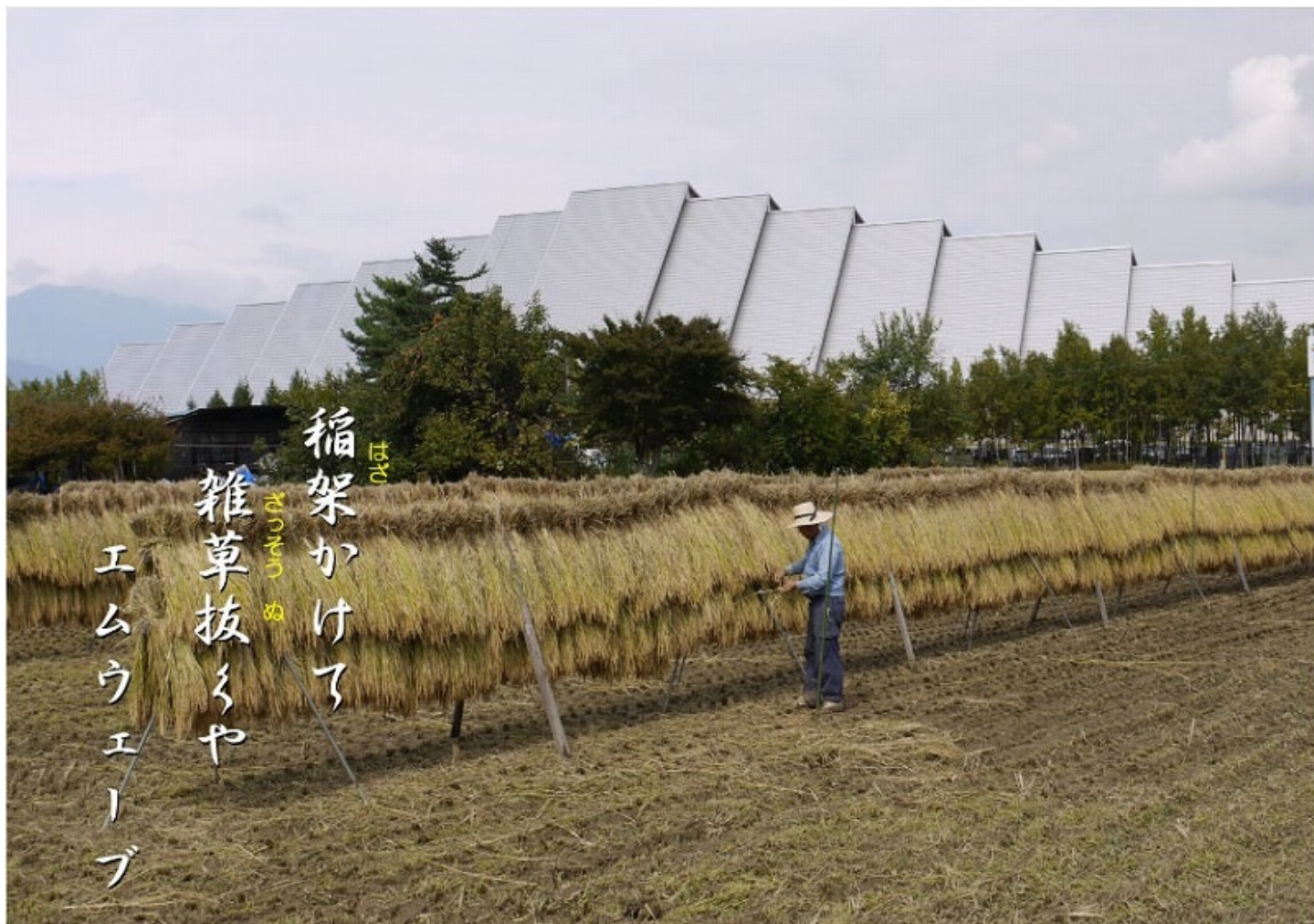


りんご園

なぜ葉を取るか

ほれ3つ

- ・セミナー会場の長野地域職業訓練センターに予定より早く到着。
- ・隣接するりんご園で、夫婦が葉摘みしている。大きなりんごの木で、採果しやすいように、枝を垂らして栽培している。話しかけて、写真を撮らせてもらう。
- ・サンフジという蜜が多いのが特徴のりんごだが、まだ収穫には早いという。陽光が十分にあたるように、果実周辺の葉を摘んでいるのだ。
- ・写真撮影が終わって、お礼をいって帰り際に、チョットまちないと、木から下りて奥に行ったら、大きなりんごを3つも抱えて、持ってけという。
- ・持ってきたりんごは「秋映」という品種で、早めに採れる信州りんごだ。
- ・セミナーが済んだ後、主催者からも、同じ品種のりんごをたくさん、お土産にいただいた。
- ・りんごは毎朝の生ジュースに欠かせない食材なので、いくらあってもいい。喜んで頂戴した。
- ・それにしても、信州人は、気前がいい！



稲架けて

雑草抜くや

エムウェーブ

- ・長野～群馬を車で旅したが、どこでも、稲架け（ハザカケ）風景が見られた。
- ・最近、コンバインで、稲刈りした時に、脱穀して、稲藁（わら）を粉碎し、そのまま、田んぼに蒔いて、堆肥化する例が多いと思っていたのに、稲架け事例が多かったのは何故か？
- ・稲架けは、人手と労力がかかるので、コストは上がるが、自然乾燥なので、出来た米は美味しい。自家用米の多くは、昔ながらの、この方法で乾燥させると聞いている。
- ・稲架けた状態で、老人が、雑草を抜いている。稲刈り前に畑に入って雑草を抜くよりも効率がよいようだ。あるいは、抜き残った雑草をさらに、丁寧に抜いているのか。かたわらには、稗（ヒエ）などの雑草が、たくさん捨ててあったので、最後に抜く方が効率的なようだ。
- ・稲架けのバックに、ピラミッドのように大きなドームが見えている。長野オリンピック記念アリーナ「エムウェーブ」だ。アイススケートリンクではあるが、他のスポーツや見本市会場など多目的に使われている。



稲藁干す日

立体模様が
広がれり

- ・ホームセンターなどで、稲藁（イナワラ）が、思ったより高く売られている。
- ・そのせいか、畑に粉碎散布しないで、稲藁を利用している事例が増えているような気がする。
- ・昔は、牛馬の餌としても多用されていた稲藁だが、最近の輸入飼料の高騰で稲藁が再認識されているようだ。家庭菜園ブームの影響もあるかもしれない。稲藁はマルチや防寒・暴風に有用だし、使用後はそのまま、畑に漉き込めば、堆肥になる。
- ・稲藁を積み上げる形は色々で、その土地によっても少しずつ異なるようだ。高く積み上げられた稲藁塔で、かくれんぼをしたり、稲藁を的に、弓矢を射た、幼い頃の思い出がよみがえる。



稲藁が

ガードレールを
ガードする

(長者が原農園日誌)

- ・ 大家さんから、分けていただいた稲藁をガードレールに跨がして干している。
- ・ 乾いたら、最近作った小屋の外側に架けてストックし、順次使っていく予定だ。



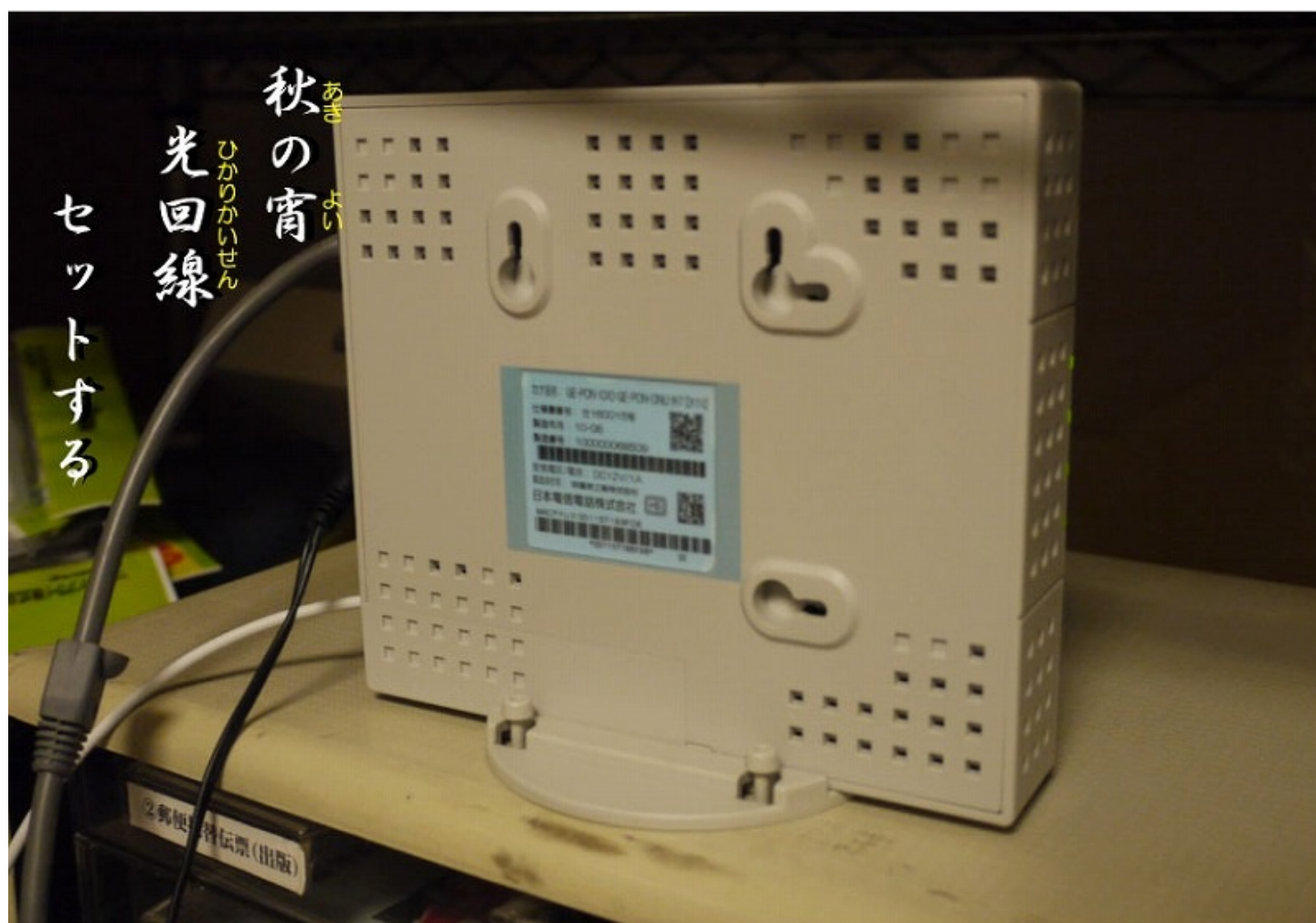
堆肥小屋

仕上がりみれば

物置に

(長者が原農園日誌)

- ・堆肥小屋を作り始めたが、途中、考えが変わり、結局、物置小屋になる。
- ・堆肥は、バラで買えば安く買えるが、そのためには、トラックを借りたりしなくてはならず、面倒だ。家庭菜園では、それほど、多くの堆肥を使用するわけでもないのので、従来どおり袋詰め
の物を購入することにした。



秋の宵

光回線

セットする

- ・伊東市でも、ここ宇佐美地区には、光回線が入っていなかった。
- ・夏前から進めていた配線工事が終わり、十月から戸別工事にとりかかっている。
- ・工事予約日の11日、午後の予定だったが、前の工事が早く終わったので、これからでもいいですかと工事会社から携帯に電話が入る。
- ・インターネットは主に2階の書斎で使うので、外から書斎の壁に穴をあけて、回線を直接引き込む。
- ・これまでは、従来からあった電話線を利用してADSL回線を使っていたので、1階から2階まで電話線を延長していたが、これで、配線関係はスッキリした。
- ・次いで、プロバイダー関係の工事人がやって来て、インターネットのセッティングをするという。事前に関係資料が届いている筈ですがというのが、NTTから関係資料が2通きただけでプロバイダーからは来ていないという、本日の工事は出来ないとのこと。IDとパスワードが必要なのだが、その資料に載っていたのだそうだ。FAXか電話で会社から送信してもらえばという、個人情報はどうとかで、出来ないとのこと。

- ・プロバイダーから、資料を再送するので、後日（日曜日）に工事をしたいと連絡あり。了解すると、ほどなく、再度電話があり、5時～6時ごろでよろしかったら、工事の人に必要データを送ることが出来ますが、その時間でも工事に伺っていいですかというから、了解した。
- ・かくて、6時過ぎに工事が完成。ネットを使ってみたが、別段早さが変わったとは感じられない。画像のダウンロードは確かに早い。huluで映画を観たり、YouTubeで落語や音楽を聴く時に、時々、画面がフリーズすることがあるのが、解消されればと期待している。
- ・光回線でテレビを観るか、有線テレビの契約を続けるか、アンテナを設置するか迷っていたが光回線テレビは面倒なようなので、有線テレビ契約続行に決めた。
- ・映画や音楽もネットで観ることが出来、買い物もネットで出来る、便利な世の中になったものだ。特に、ネットでの買い物は品物が玄関先に届けられるので、年寄り向けだ。

疎抜き菜



疎抜き菜

一抱えして
朝餉待つ

(長者が原農園日誌)

- ・朝晩の気温が下がり、大根の生長が早くなってきた。
- ・3～4日も留守をすると、疎抜きの時期を逸してしまい、大根が押しくら饅頭をしている状態だ。
- ・毎朝、疎抜きした大根葉を一抱えほど、家に持ち帰る。お浸しに、味噌汁に、炒め物にするなど、あれこれ工夫して食している。
- ・先日、産直市場で買った大根の疎抜き葉を東京の姉に送ったところ、とろけてしまっていて食べられなかったというので、小生の畑から、疎抜いたものを、送ったところ、新鮮でシャキッとしておいしかったと、電話があった。原因はなんだったのだろうか？
- ・疎抜く時、大根の葉のトゲが痛いくらいだし、葉もパキッと折れやすい。
- ・美味しい疎抜きした大根葉を食べたければ、こちらに来るしかないよと、姉に返答した。



青い畑

蕎麦の花々

化粧せり

(長者が原農園日誌)

- ・先日の台風で、倒れかけた蕎麦が、体勢を持ち直して、白い花を咲かせている。
- ・この時期、枯れ始めた雑草の茶色を押しよけるように野菜の若葉の青が勢いを増している。
- ・そんな中、蕎麦の花の白が、秋の涼しい空気を代弁し、薄化粧するかのように清清しさを加えている。

空心菜



空心菜

伸びて隣へ

ご挨拶

(長者が原農園日誌)

- ・葉野菜が少ない暑い夏でも、元気に育つ空心菜。
- ・ほうれん草に比べて、カルシウム4倍・ビタミンA 5倍・ビタミンB群2倍・ビタミンC 2倍あるという、優秀さ。英語ではchinese spinach (中国ホンレンソウ) とも、呼ばれている。
- ・中華料理で多用されている野菜だが、小生はあまり好みでない。
- ・生命力が強く、最近では、蔓が伸びて、隣のエリアまで進出している。



空心菜

夕顔に似た

花つけり

- ・ほとんどの夏野菜が畑から退場したのに、中国野菜の空心菜だけは、いまだに元気だ。
- ・最近、蔓を伸ばして、夕顔そっくりの白い花を咲かせている。
- ・そのため、別名、朝顔菜とも呼ばれる。
- ・清楚で可憐な花に免じて、暫らく、このまま抜かないでおこう。



鮎釣りや

太った猫が
傍で待つ

- ・宇佐美湾に注ぐ烏川（からすがわ）には、毎日のように鮎釣りをする人が何人かいる。友釣りではなく、イクラを餌に釣るといふ。
- ・釣り人の傍らに太った猫が釣れるのをじっと待っている。
- ・釣り人の飼い猫か、それともこの近くの猫か、もしくは野良猫か。
- ・宇佐美漁協の先にある、釣りのポイント近くには野良猫が多い。釣り人が、いらぬ魚を捨てるのを当てにしており、餌に困らぬ。



奇石群

顔を移して

浅間山

- ・天明3年（1783）の浅間山の大噴火によって、形成された嬬恋村（旧鎌原村）の「鬼押し出し園」。これまで、何回か来た事があるが、今回のように2時間以上かけて、ゆっくり歩いたのは初めてだ。
- ・奇石群をよく観察すると、見る角度によって、多くの顔が見える。目や口を先にイメージすると、顔が浮かんでくる。多くの顔は、口を上に向けて苦しいように喘いでいるように見える。人間だけでなく、犬や猫、馬、ライオンなどの動物の顔もある。
- ・噴火による火砕流によって、一瞬に命を奪われた怨念が岩に移っているのかもしれない。
- ・靈感の強い人ならば、もっと多くの顔を見ることが出来るかもしれない。



松に岩

盆栽好きに

鬼押し出し

- ・ 孺恋村鬼押し出し園にて
- ・ 盆栽好きにはたまらないであろう、自然が作った盆栽風景を、あちらこちらで見ることができる。

秋玉菜



秋玉菜

目玉揃えて
お出迎え

- ・ 孺恋村のキャベツ畑は、北海道のように広々としていて、色景色のいいのが好きだ。
- ・ 近くに温泉が多いのもいい。
- ・ キャベツが目玉に見える。
- ・ 中には（下から2段目左から3個目）、鳥に啄ばまれたものもある。

甘藍



甘藍が

目玉ギョロリと

こちら向く

・ 同じ写真でもう一句

・ キャベツ（英語：Cabbage、*Brassica oleracea* var. *capitata*）、アブラナ科

名前は英語に由来するが、さらにその語源はフランス語の*caboché*（頭）から。別名の甘藍（かんらん）は中国語名の甘藍（ganlan）から、玉菜（たまな）は、結球する性質に由来する。ビタミンC、ビタミンUを豊富に含む。<wikipedia>



鳥害に

あいし畑の

キャベツ買い

- ・以前、こちら（孺恋高原）に来て、農薬散布の光景を見たことがある。トラクターに取り付けた長い竿状のノズルから、白い霧になって散布される。近くにあったショートコースのゴルフ場（今は廃業してない）にいた地元の人が、自分で食べるキャベツは、別途、無農薬で作ると語っていたのが、頭にこびりついていて、買ったことがなかった。
- ・ところが、今回、収穫時期の写真を撮影してみると、随所に、鳥に啄（つい）ばまれたキャベツがある。収穫後の畑にも、幾つも採り残されている。鳥が啄ばむくらいなら、残留農薬もなく安全なんだろう。
- ・今春、中伊豆体験農園でJ A伊豆の指導員から聞いた講義では、農薬は正しい時期、正しい量（薄め方）、正しい品（有効期限）、正しい散布方法を守って使えば、安全だと話していた。
- ・素人が、安易に使ったり、自然材だからといって、残タバコを水で溶いて散布するなどの安易な使い方の方が危ない場合もあるようだ。そういえば、家庭菜園で殺虫剤を噴霧していた光景を見たことがあるが、危険だ。
- ・キャベツ畑の前に出ていた農家直売所でお土産用に、キャベツを5個買い求めた。大きくて、ずっしりと重い、採りたてのキャベツが1個100円だ。ホームセンターで、キャベツ苗が1本95円で売っていた。この差は何なんだ！
- ・小生も今年、キャベツをたくさん植え付けた。虫除けにはネットを被せている。
- ・1個のキャベツでロールキャベツが20個出来た。調理時間2時間40分だが、このレシピが絶品。<[ロールキャベツ レシピ](http://atec.heteml.jp/print/2012-10rka.pdf)><http://atec.heteml.jp/print/2012-10rka.pdf>

八ッ場の湯



頼朝や

響く槌音

八ッ場の湯

- ・八ッ場ダムの建設が中止で翻弄され続けてきた川原湯温泉。増築も改築も出来ず、寂れるに任せざるをえない。
- ・共同浴場の「王湯」入口の横に、川原湯温泉が源頼朝が発見したと云われるのにちなみ、源氏の紋所である「ささりんどう」が掲げられている。正式には、「玉湯」と書いて「オウユ」と読む。



- ・民主党政権になり、一度は建設中止になったダム工事が再開、湯に浸りながら、建設の槌音を聞く。
- ・高校（群馬県立太田高校）時代の同級生、大沢群馬県知事がダム問題でテレビに何度も出ていた。久しぶりに、顔をみた。難しい課題を抱えて、頑張っている。
- ・ダム完成時には、水面からの高さしか見えないので、違和感がないだろうが、ダム未完成の現在、陸橋の橋げたが、ものすごく高く、壮観だ。
- ・まもなく、周囲は紅葉に染まる。陸橋と紅葉だけでも観る価値あり。



やんちゃ蒔き

何が出るかな

楽しみぞ

- ・家庭菜園で困るのは、種が余ることである。もったいないと残しておいても、来年に持ち越すと発芽率が悪くなる。冷蔵庫に入れておくと数年は大丈夫というが、我が家の冷蔵庫には余裕のスペースがない。そこで、余った種は壇（びん）に入れている。かくて、この壇には、色々な種が混在していることになる。蒔く時期が多少ずれているものも若干あるが、どうせ余り種だから、気にしない。
- ・この混合種を、日をずらして、適宜、蒔いている。「やんちゃ蒔き」というような。
- ・みんな元気に育つ時期もあるが、あらかた、虫の餌になる時期もある。自分が虫に食べられることで、他の野菜が虫の害にあうのを防止するけなげな野菜もある。雑草と混在させて野菜を育てる自然農法とあい通ずるものがある。
- ・この時期は、大根の生長が他の野菜よりも早いし、発芽率もいい。大根の疎抜き（おろぬき）菜は、大根畑にいくらでもあるので、「やんちゃ蒔き」で出てきた大根葉は、早めに疎抜いて、他の野菜の生長を助ける。
- ・何が出てくるか、どの野菜が勝ち抜くか、見届けるのもおもしろい。途中、疎抜き（間引き）した菜は、色々な生育段階で、味噌汁の具やおひたし、サラダなどに使えて便利だ。
- ・この時期は、小鳥も多く、ところどころ、芽が出ていない部分がある。蒔いた直後、小鳥が、種を啄（つい）ばんだのだろう。「やんちゃ蒔き」は小鳥にとってもうれしいのだ。



富士山の
色濃くなりて
秋来たり

- ・伊豆スカイラインの滝知山から見る富士山が好きだ。この公園の反対側からは海が見える絶好のビューポイントの一つである。初日の出にも、何度も来た。
- ・富士山の姿の変化で季節の移り変わりを識る。
- ・春～夏は、モヤでかすんでいた富士山もこのころ（写真撮影は10月6日）には、空気も澄んで来て、くっきりと雄姿を見ることができる。
- ・今までは、ややもすると、見えなかった飛行機もはっきりと見えるようになる。飛行機は美しい日本のシンボルでもある富士山を見ながら海外へ飛び立っているようだ。
- ・今日この頃の富士山は、頂上を雪で飾り、一年で最も富士山らしい姿となる。



案山子らが

見事に演ず

田の舞台

- ・小学生のころ、冬の休み時間の過ごし方は校庭での、飛び馬（馬飛び）、おしくらまんじゅう、相撲、ひなたぼっこだった。
- ・教室には石炭ストーブが一つあったが、部屋全体を暖めるには足りない。
- ・遊具なしでも出来るこのような集団遊びが、身体を温める役割も果たした。子供は遊具がなくても、遊ぶ術（すべ）はいくらでもあった。
- ・そんな思い出を畑の中に再現しているのが、西伊豆・松崎町の案山子（かかし）群像だ。
- ・ここは、春には、一面のお花畑になり、人々を楽しませ、夏には、ユニークな案山子が畑のあちこちに現れる。
- ・そして、秋に、稲刈りが終わった田んぼに、案山子達を集合させて、案山子群像を見せてくれる。ことし（2011年）のテーマは「飛び馬」だ。われわれの年代の人には郷愁を覚える。ゲーム機も否定しないが、このような、集団で遊べ、しかも遊具なしで遊べる、むかしながらの遊びに、今の子供達にもチャレンジしてもらいたいものだ。
- ・馬の列の長さを競ったことも思い出した。これで、多少のケガもした。ケガを恐れて、公園か

ら遊具を撤去する愚拳を最近目にする。大南公園（武蔵村山市）の鎖を使ったジャングルジムが最近撤去されて、幼児用の滑り台に代わっていた。木登りがままならないのなら、せめてジャングルジム（しかも難しいのがいい）は残して欲しかった。孫たちは、我が家へ来るときっとこの遊具に登ったものだ。危険だからといって、これらの遊具を公園から無くしていたら、津波などいざという時に、すばやい避難がままならない。ひ弱な子供に育ってしまう。木登りや飛び馬は、防災遊戯でもある。

・子供が少しばかりのケガを恐れていたのでは、たくましい大人になれない。



この案山子

下着あるかと

裾めくり

・ 西伊豆松崎町の案山子群像は必見！



角々に
香り現る
金木犀

- ・この時期、散歩していても、車で通りすぎても、あちらからも、こちらからも、金木犀の匂いが漂う。今年は、特に多いように感ずる。
- ・ここにもあったのかと、あらためて再確認する。
- ・少々の香りなら素敵なのだが、あまりにも多いと、強い香水をつけた美人群の中にいるようなもので、時には嫌悪感がする。
- ・特に飛行機の中のように密閉された場所での強い香水は御免だ。



虹出たよ

畑に行くか

迷う朝

- ・虹が出ているよと呼ぶ家人の声に、カメラを携えて、ベランダに出る。くっきりと、山側に虹が出ている。
- ・朝虹の後の天候は雨、夕虹の翌日は晴れという。
- ・天気予報も午後からの雨を伝えている。しかし、朝陽は強く射し込んで来た。
- ・こんな日は、畑に出かけるかどうか躊躇する。



プツチンと
種弾けたる
オクラかな

(長者が原農園日誌)

- ・種取用にオクラを数本、畑にそのまま残している。
- ・鞘が割れ、真っ白な丸いタネが飛び出さんとしている。
- ・オクラはそのまま置くと、木質化する。温暖地では多年草だが、寒さに弱く、霜に当たると枯れてしまうので、日本では1年草的に栽培されているとのこと。今年は、数本を防寒処置をして枯れないように育ててみようかな。



虫取り布

ペットボトルで

再利用

(大仁まごごろ農園日誌)

- ・ トマト栽培で活躍した、黄色い虫取り布。触るとまだ粘着性が残っている。そこで、空きペットボトルに巻きつけ、棒に被せて土に刺した。虫取り器兼もぐら防御装置だ。
- ・ 寒くなり、虫の数も減ったが、少しは役に立つだろう。



伊豆牛や

新店に移り

コロッケ買う

- ・伊豆牛牧場直販店（伊豆市）が、このほど、橋の近くに新店舗を新築してオープンした。
- ・年を取ったら肉を食べた方が元気で長生きするというのが、予算の関係と食欲の関係で、肉より魚を食す方が多い。
- ・肉は少量でいいから、美味しいものを食べたい。かくて、ごく、たまに奮発して、おいしい伊豆牛を少量、食べることにしている。
- ・通常は、中伊豆体験農園の帰りに、こちらに迂回して、伊豆牛が少し入っているというこのコロッケを買う。小ぶりだが、少しだけ贅沢をした気分になる。
- ・いつも混んでいて、しかも、ここは対面販売だ。気の弱い小生は、人を掻き分けて買うのが苦手で、買うのに苦労していたが、新店舗になってからは、少し広くなって、買い易くなった。



2012-10-12 Leah

亡き妻の

遺伝子繋ぐ

孫産まれ

- ・ 予定より1週間早く、孫が産まれたとの報あり。
- ・ 妻が亡くなって、3人目の孫である。父親に似ているのが、心配だ。
- ・ 長女も生まれたばかりの時は、同じような顔をしていたので、3歳くらいになればかわいくなるだろう。
- ・ 長女から幼児の面影が薄れ、早くもお姉ちゃんらしくなっているのが頼もしい。
- ・ 亡き妻の仏前に香をたき、無事産まれたことを報告した。



孫娘

アイドル代りて 背丈伸び

- ・サンフランシスコでの乗り換えに多少戸惑ったものの、どうにかサンディエゴ空港に到着。孫娘へのプレゼント、プリキュアグッズを娘は仕分け、半分をクリスマス用に隠して、孫娘に渡す。
- ・ついこの間まで、ドラえもんだった孫娘のアイドルが、すっかりと代わり、プリキュアになった。幼女の気の代わりの早さは、女心と秋の空を既に内包している。
- ・サンディエゴ空港での最後の荷物検査の時、日本からだ、ラーメンかカレーを持って来たかと、聞かれたので、カレーを持って来た、正直に答えたら、プリキュアのレトルトカレーを没収されそうになった。箱の裏の記載事項を見て肉が入っていないか確認している。隣りで別の人の荷物検査をしていた日系の女性に見せる。彼女はプリキュアがプリントされているのを見て、OK!といいスルーしてくれた。
- ・100円ショップなどで買ったプリキュアシリーズ、楽しみにしていた孫娘がよろこんでくれた。



ハロウィンや
かぼちゃ細工
競い合い

- ・ハロウィンにカボチャはつきものだ。
- ・ハロウィーンでのカボチャのお化けの由来>>>[こちら](#)に、子供に読み聞かせ物語として詳しく載っている。本来はカブなのだが、アメリカではカブよりカボチャが沢山とれたので、カボチャが定番になったという。
- ・それぞれの家庭で、カボチャに細工して、玄関先に置く。また、子供達はカボチャを模したバケツを持って商店や近所にお菓子を貰って歩く。大きな子供はお菓子が一杯入れられるように、大きな袋を持っている。当日（10月31日）は、どのショッピングセンターでも、駐車場に車が入りきれないほど人が集まる。
- ・カボチャの顔をあしらったドーナツを無料で提供するドーナツ店（Krispy Kreme）、りんごを1個くれるスーパー、カップアイスクリームをくれるアイスクリーム屋さんなど太っ腹な店もある。
- ・写真右上の、カボチャの中身をゲロして、ビール瓶を横に置いた作品が秀逸だ。

・ちなみに、わが孫娘はカボチャを黒く塗ってパーツを貼り付けて、キティちゃんカボチャを作り玄関に置いた。





街中に

かぼちやころがる

祭りかな

ハロウィン「変身」



ハロウィンや

子も親も皆

変身す

・ハロウィンの10月31日、ショッピングモール内は、仮装行列広場化する。思い思いのキャラクターやスパイダーマンなどの映画主人公に仮装している。日本のアニメキャラクターに変身している例も多い。ゾンビなどお化けキャラも定番だ。フェイスペイントで怖い顔になる人もいる。

・大概是ショップで買った衣装だが、ダンボールなどで手作りしている子もいて、見ているだけで楽しくなる。

・伊東にある、変身バーに仲間といったことがある。そこには色々な衣装が取り揃えてあって、スタッフが短時間で、お客を変身させて、舞台に送り出す。1年に1回別なキャラクターに変身するのはいいかもしれない。

<Chula Vistaにて>



ハロウィンや
子等が急に
菓子好きに

- ・夕方、ショッピングモールから帰りがけ、娘がショップに立ち寄る。ハロウィン用のお菓子を
買うのだという。
- ・家に帰ると、孫娘は、すでに、ショッピングセンターのあちらこちらの店で頂いた菓子類で重
くなったカボチャのバケツを持って、近所のドアホーンを鳴らす、家人が出てきて、お菓子を
入れてくれる。
- ・家に帰ると、次々にドアホーンが鳴る。入れ替わり立ち代り子供達がお菓子を貰いに来る。中
高生はグループで回り、夜なので、小さい子供は、保護者がエスコートしてくる。
- ・知ってる子がくると、暫し立ち話をしている。コミュニケーションの輪が広がり、近所の連帯
感が広がるいいイベントだ。
- ・夕食後、孫娘はまた、お菓子を貰いに別の家を回りたくとダダをこねる。もう遅いからと諦め
させるが聞かない。幼子を抱えた母親に叱られべそをかく。一緒にシャワーを浴びながらだめ
すかし、ようやく笑顔が戻った。この強欲さは誰に似たのか。亡妻に似たに違いない。

ハロウィンや
もっと周ると
だだをこね

<Chula Vistaにて>



ハロウィンや
戸口で広がる
となりの輪

ハロウィン「ゾンビ」



ハロウィンや
ゾンビが家を
占領し



ハロウィンや
紙袋帽子に
はまる孫娘



- ・ハロウィンイベント会場で、紙袋ハットをかぶっている子供が多くなってきた。
- ・クラフト好きな孫娘は、会場の一角で紙袋ハット作りのテントを発見。紙袋の口を巻き上げてハット状にした袋を貰い、机の上に広げられたステッカーや色紐、色着けされた羽などでハットを飾りつける。用具はハサミと穴あけパンチとノリが用意されている。小さい子はもとより、女子高生らしき人たちも夢中になって作っている。
- ・もちろん、ボランティアグループが無料で提供しているのだが、費用対効果の大きい出し物だ。日本でも祭りなどで真似したらいい。

ハロウィン「かぼちゃ籠」



かぼちや籠

店巡るたび

重くなり

ハロウィン「店廻り」



ハロウィンや
店廻り
子供等楽し